

## 発刊にあたって

川崎市は、これまで工業都市として製造業を中心に発展してきましたが、近年は先端技術の研究所等が多く立地するなど、新たな成長がみられ、このような状況を背景に今や141万人の市民が暮らす街となりました。そこで、市民の皆様が住んでいてよかったと思えるまちづくりに取り組んでいくにあたり、正確な統計情報は、政策の立案などの様々な面において、行政上の基準、諸計画の基礎データとして必要となります。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書(平成21年版)」及び「大都市比較統計年表(平成20年)」の中から、市民生活に関係する統計情報を中心に、分野別、体系的に整理し、グラフや解説を加えて分かりやすく編集しています。なお、今回は高度なものづくりや世界的な環境技術の集積地域として注目を集めている川崎臨海部に関する特集を掲載しました。

統計を通して、川崎市の推移と現況の正しい理解と認識を深めていただくとともに、本書がより一層、利用者の皆様に幅広くご活用いただければ幸いです。

平成22年(2010年)9月

川崎市長 阿部 孝夫



# 平成22年版 川崎市統計データブック 目次

<b>1</b>	<b>特集</b>	～川崎臨海部の変遷～	1	37	交通事故発生状況	46
1	臨海部ってどんなところ？		2	38	こども・学校 保育所の概況	47
2	工業都市としての発展		6	39	小学校・中学校の概況	48
3	脚光をあびる臨海部		8	40	福祉・健康 生活保護の概況	49
				41	出生と死亡	50
<b>2</b>	<b>市政データ</b>		<b>9</b>	42	住 居 着工新設住宅戸数	51
1	人 口	人口の推移	10	43	建て方別住宅の概況	52
2		区別人口	11	44	選 挙 選挙	53
3		人口の自然増減と社会増減	12	45	財 政 市税収入額	54
4		年齢別人口	13	46	市 民 意 識 市民要望・評価と定住状況	55
5		区別昼間流動人口	14		「ちょっと一服」 2010年は国民読書年	56
6		労働力状態	15	<b>3</b>	<b>大都市データ</b>	<b>57</b>
7		外国人登録人口	16	1	人口・世帯数及び面積	58
8		婚姻と離婚	17	2	人口増加数	58
9	事 業 所	産業の構造	18	3	年齢別人口	59
10		区別の民営事業所	19	4	就 業 者 数	59
11		資本金階級別企業数	20	5	事 業 所	60
12	農 業	農業の推移	21	6	工 業 業	60
13		区別の農業概況	22	7	商 業	61
14	工 業	工業の推移	23	8	貿 易	61
15		区別の工業概況	24	9	住 宅	62
16		業種別の概況	25	10	消費者物価地域差指数	62
17		従業者規模別の概況	26	11	市民経済計算	63
18	商 業	商業の推移	27	12	治安及び災害	63
19		卸売業の概況	28		「ちょっと一服」 川崎市民の暮らしの特徴	64
20		小売業の概況	29	<b>4</b>	<b>川崎市近隣市区データ</b>	<b>65</b>
21		区別の卸売業・小売業	30	1	川崎市近隣市区地図	66
22		大型小売店の概況	31	2	データ一覧	67
23	特定サービス業	特定サービス業の概況	32	<b>5</b>	<b>基礎データ</b>	<b>69</b>
24	産 業・生 活	海上出入貨物	33	1	川 崎 市	70
25		卸売市場	34	2	川 崎 区	71
26		賃金・労働時間	35	3	幸 区	71
27		一般雇用保険	36	4	中 原 区	72
28		一般職業紹介状況	37	5	高 津 区	72
29		経済活動別市内総生産	38	6	宮 前 区	73
30	都市生活基盤	水道	39	7	多 摩 区	73
31		下水道	40	8	麻 生 区	74
32		市バスの運輸状況	41			
33		主要駅の1日平均乗車人員	42			
34		ごみの処理状況	43			
35		犯罪認知件数	44			
36		火災発生件数	45			

## 利用上の注意

統計表中の符号の用法は次のとおりです。

- 「0」 単位未満
- 「―」 皆無又は定義上該当数字がないもの
- 「▲」 マイナス又は比較減を表わす
- 「X」 該当数字はあるが発表をさしひかえたもの
- 「…」 数字が得られないもの